

事務事業名	日本公園緑地協会参画事業 ☐ 実施計画事業		所属部局	建設部		単位番号	7052							
			所属課室	都市計画課		課長名	新津 元博							
			所属担当	計画担当		担当者名	三柵 武							
基本政策	基本計画体系	Ⅲ	うるおいと利便性のある都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目			
		13	都市空間の整備		01	一般	0	8	0	4	0	1	0	2
政策	21	安らぎ空間の整備	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金										
施策														
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 15 年度)		法令根拠	なし										
	☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)													
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 毎年講習会や研修会を実施し、市町村職員の公園緑地事業に関する知識を深めている。 事務事業としては、総会・研修会への参加、負担金の納入が主となっている。			事業費の主な内訳 (22年度)										
				項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)							
				その他負担金	42									
						計	42							

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と目標

① 活動	
22年度活動実績	総会・研修会への参加 負担金の納入
23年度活動予定	総会・講習会・研修会への参加 負担金の納入
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
都市計画課職員	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
公園緑地事業に関する知識を身に付ける	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
市民が安らげることのできる環境を作る。	

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 講習会・研修会開催意回数	回
イ	
ウ	
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 都市計画課職員数	人
イ 参加人数	人
ウ	
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 有益な情報収集が図られたと感じた参加者の割合	%
イ	
ウ	
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 公園や子供の遊び場に関する住民の満足度	%
イ	

(2) 事業費・指標の推移

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)	
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								
			県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円								
			一般財源	千円	56	42	42	42	42	42		
	事業費計 (A)		千円	56	42	42	42	42	42	0		
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	2		
		延べ業務時間	時間	1	10	10	10	10	10	10		
		人件費計 (B)	千円	4	45	40	40	40	40	40	0	
		(A)+(B)		千円	60	87	82	82	82	82	82	0
活動指標			アイウ	回	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
			アイウ									
			アイウ									
対象指標			アイウ	人	5.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0		
			アイウ	人	5.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
			アイウ									
成果指標			アイウ	%								
			アイウ									
			アイウ									
上位成果指標			アイ	%	34.0	37.9						
			アイ									

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	公園緑地事業の整備促進を図るため、合併前より各市町村により実施していた事業を継続して実施している。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	現在、楡形総合公園の整備・改修を実施しており、今後も都市公園の整備・改修等の計画もあるため、継続して事業を進めていく必要がある。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	楡形総合公園の改修や旧免許センター跡地の公園化の要望等がある。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☐ 取り組みしている ⇒【内容!】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由!】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	事務事業の主な内容が、総会や研修会への参加であるため、特に取り組む必要性はない。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	特になし

事務事業名	日本公園緑地協会参画事業	所属部	建設部	所属課	都市計画課
-------	--------------	-----	-----	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 情報や知識を得ることにより、公園緑地事業の促進が図られ、安らぎ空間の整備に結びつく。	
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 市が実施する公園緑地事業の促進を図るための事務事業であるため、市が行うことが妥当である。	
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 現在、市が実施している公園緑地事業も研修会での情報交換等を活かしつつ整備促進が図られてきているため、今後も事業を進めていく上で、継続していく必要がある。	
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 適切な情報収集や、指導を受けるために参画しているもので、成果の向上の余地はある。	
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 各事業ごとの参画事業としているが、総合的に公園事業として位置づければ、統合する事も可能であると思われる。	
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 最新の情報が得がたくなり、職員のレベルアップにも影響すると共に、事業の必要性や国補の予算確保が困難になる。 今後も公園緑地事業を計画的に進めるためには、継続的に行っていく必要があり、休止・廃止することはできない。
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 事業費は、負担金のみであるため、事業費の削減の余地はない。	
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 総会・研修会への参加と情報整理及び経理事務に関する業務時間であり、これ以上の削減の余地はない。	
公平性 評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 公園緑地整備を行い、市民に安らぎ空間の場を提供するための事業であるため、公平・公正である。	

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	研修会等に参加し情報収集に努めているが統合が望ましいと思われる。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可 ☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果) (2) 改革改善案について ①公園緑地は整備する時にもっとも必要と考えられるので事業担当の研修会等に参加することが望ましい。 ② ③		(3) 改革・改善による方向性 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要 (5) 事務事業優先度評価結果 <table><tr><td>成果優先度評価結果</td><td>対象外</td></tr><tr><td>コスト削減優先度評価結果</td><td>対象外</td></tr></table>				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐			成果優先度評価結果	対象外	コスト削減優先度評価結果	対象外
		コスト水準																										
		削減	維持	増加																								
成果水準	向上	☐	☐	☐																								
	維持	☐	☒																									
	低下	☐																										
成果優先度評価結果	対象外																											
コスト削減優先度評価結果	対象外																											
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 ①計画的に業務を遂行し積極的に研修会等に参加する。 ② ③																												